農林水産大臣賞（優秀賞）

水との関わり

福島県 矢吹町立矢吹中学校 二年 諸根 さつき

私の家は畜産農家で、黒毛和牛を育てています。牛を育てるためには、水が必要不可欠で、私の家では地下五十七メートルから地下水を引き、約三百頭の牛がその水を飲んでいます。

私も幼いころから牛の世話をよくしていましたが、牛は汚れた水を絶対に飲まないので常にきれいな水を飲める環境を保たなければなりません。その他、牛を育てるためには、稲わらが必要で、田植えをして、米を育て、収穫した後のわらを集めて牛に与えています。

米を育てるためにも水を欠かす事は出来ません。

水は天からの贈り物で雨や雪が降らないと農業は成り立ちません。自然の恵みで私達は生かされています。しかし、時にその自然が猛威を振るう事があります。

令和元年十月、私が小学二年生の時に台風十九号が日本列島に上陸し、私の家も甚大な影響を受けました。家の周りの川が決壊して氾濫し私の家と牛舎は濫する直前まで牛達を高台に移動したりトラックに出来るだけ牛を詰め込んで一頭でも多く牛を助けるために手を尽くそうとしましたが、全頭助ける事は出来ませんでした。残された牛は生き延びた牛もいましたが、濁流に流された牛、牛舎の中で残酷な姿で亡くなった牛も少なくありませんでした。水の力はとてつもなく、牛舎の中は沢山の流木やがれきや刈り取った後の稲わらなど、その他沢山の泥で埋め尽くされていました。

牛舎や家の壁には二～三メートルの高さのある水害の跡が残っていました。幼かった私には、その状況を直ぐに受け入れる事が出来ず恐怖と悲しさで全身が震えた事を覚えています。

きれいな水を牛に飲ませるために母親の実家から祖父が何度も水を運んで牛に与えました。あの時の美味しそうに水を飲む牛の姿は忘れる事は出来ません。

牛舎の蛇口からきれいな水が出るまで数日かかりました。私も一頭一頭に水を飲ませる手伝いをしましたが、本当に水は貴重だと子供ながらに痛感しました。

あれから月日が経ち、我が家は困難を乗りこえ両親は牛を水害から守るため高台に牛舎を建て日常を取り戻し、米、野菜を作り、牛を育てています。

現在世界各地で自然災害が起こり、苦しんでいる人々が沢山います。地球温暖化の影響だと言われています。これから先の地球の環境を良くするための行動を再認識して私が出来る事、節水、節電などを常に心がけて生活したいと思います。

水に感謝をして。